

# 編修趣意書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
102-99	高等学校	地理歴史科	歴史総合	
※発行者の番号・略号	※教科書の番号・略号	※教科書名		

## 1 編修上特に意を用いた点や特色

### ① 資料と問いにもとづき主体的に探究する

- ▶写真や文字史料、地図、年表などの**多様な資料を豊富に掲載**するとともに、それらを活用して思考・判断・表現することを促す**問いを随所に配置**し、主体的・対話的で深い学びの実現をめざしました。
- ▶歴史的な見方・考え方を働かせ、**歴史事象を多面的に考察**できるよう、資料を精選しました。

▼p.16~17

### 3 18世紀のイギリスとアジア、アフリカ

18世紀のイギリスでは、中国産の茶やインド産綿織物などアジアの豊かな産物が人気を集めた。一方で、大西洋三角貿易により、イギリスは多大な利益を手にした。イギリスがこなしたグローバルな貿易は、各地にどのような変化をもたらしたのだろうか？

**図1** 18世紀前半のイギリスの喫茶風景

17世紀後半、イギリス国王チャールズ2世に似いだボルトガル出身のキャサリン王妃が、輸入のさいに大量の砂糖と一茶の茶を携帯したことをきっかけに、イギリスの上流階級の間で、喫茶の風習が大流行した。



18世紀前半ごろの茶の飲み方について、気づいたことをあげてみよう。

**図2** イギリスのマカートニー使節団と中国(清)の皇帝

1793年、マカートニーはイギリス政府が初めて清に派遣した使節団の全権大使を務めた。広大な領土に誇った貿易要求を清の皇帝に認められず(自由貿易)を要求したが、拒否された。



18世紀末に活躍するマカートニー(1792年)

中国は産物が豊富で、国内にないものはない。ただ中国に産する茶、陶磁器、絹などは、西洋各国の必需品であるから、広州において貿易をゆるし、必需品をりえて、中国の意思をほごしうおわせているだけである。

### 7 アダム・スミス「国富論」

わが国インド諸島植民地のどこにあるものであれ、砂糖プランテーションの利益は、一般に既知で知られているどんな作物のそれよりもはるかに大きい。



**図3** サトウキビのプランテーション

植民地カリブ海のアンティグアの農園の様子。

**図4** 環大西洋圏の地域別奴隷輸入数

年	イギリス領北アメリカ	イギリス領カリブ	フランス領セント・ドメング	スペイン領プエルトリコ	ブラジル	その他	計
1501~1600	0	0	0	170,400	29,200	700	200,300
1601~1700	16,100	311,300	180,400	225,600	782,300	6,190	1,520,790
1701~1800	297,600	1,811,800	1,359,700	146,000	1,990,700	7,620	5,613,420
1801~1866	78,300	195,100	133,100	783,500	2,081,300	149,900	3,371,340
計	381,000 (13.7%)	2,318,200 (81.7%)	1,295,500 (46.6%)	1,644,410 (58.6%)	10,705,950 (38.1%)	17,075,950	

この表は、環大西洋圏に輸入された奴隷の数の総数であり、実際にアフリカから輸出された奴隷の人数は、1250万人におよんだと推定されている。18世紀初めにわたって行われた奴隷貿易によって、アフリカの人口は激減し、アフリカの人口構成などに大きな影響を与えた。

### 4 18世紀の大西洋三角貿易



18世紀末のイギリスにとって、中国の清のような貿易相手だったのだろうか？

イギリスの輸出品目や輸出品数の変化から考えられることは何だろうか？

### 5 イギリスからアフリカへの輸出品の構成



1720~1749年: 151万ポンド (砂糖輸出)

1750~1779年: 580万ポンド

1780~1800年: 1,075万ポンド

### 6 ヨーロッパ諸国による奴隷狩りの様子



18世紀末のイギリスは、熱帯、亜熱帯の植民地で生産された商品作物がおもに取引された。これらの商品作物は、ヨーロッパ人向けにプランテーションで集約的に生産された。18世紀には、西インド諸島の砂糖やコーヒー、北アメリカ南部のタバコなどがヨーロッパ市場に大量に流入し、ヨーロッパ人の生活を一変させた。

プランテーションでの労働には、当初は先住民が用いられた。しかし、過酷な労働と感染症のためにその人口が激減すると、かわりに西アフリカから多数の黒人が奴隷として輸入された。ヨーロッパの奴隷商人は、アフリカの部族間の対立に乗じて、その部族を奴隷として購入した。こうして、ヨーロッパ、西アフリカ、アメリカ植民地を結ぶ大西洋三角貿易が、18世紀のヨーロッパ諸国による世界商業活動の中心となった。

▶大きな紙面で写真や図を読み取りやすくし、生徒自身が資料から新たな発見をしたり、新たな問いを立てたりすることができるようにしました。

▼p.50~51

**第3編**  
**国際秩序の変化や大衆化と私たち**

産業革命に促される技術革新で大量に生み出された商品は、人々のくらしをより便利で快適にした。一方で生活スタイルが画一化し、人々の考え方や行動は新聞、ラジオ、広告などのマス・メディアから流れる情報に大きく影響されるようになった。こうした人々の生活は大衆とよばれた。

**第1章 生活や社会の変化を読み取ってみよう**

世界一の商店街誕生！～アメリカ、ニューヨークの五番街～

五番街は、ニューヨーク、マンハッタン島の中心をほぼ南北に走る大通り。19世紀末から高級ブランドの店やデパート、富裕層の邸宅が並び、1920年代からは超高層ビルも次々に建設された。人々を魅了させ、都市生活を充実させる、世界有数のショッピング街である。

▼1913年の五番街

500五番街ビル (60階建て 212m)

五番街のおもな超高層ビル  
エンパイアステートビル 1931年完成  
500五番街ビル 1931年完成  
ロックフェラーセンター 1939年完成

50 第1章 生活や社会の変化を読み取ってみよう

**Check!**

- 資料から生活様式の変化について考えてみよう  
▶技術革新が人々の生活や社会に与えた影響  
▶20世紀前半ごろの都市や人々の様子  
▶人々を魅了した、もの
- 疑問に思ったことをもとに、学んでいきたいことをあけてみよう

**2 衣洗機の広告(1936年、アメリカ)**

「毎日1セント以下の電気で、手で洗うよりも早くきれいに洗える」

新製品によって、くらしはどう変わった？

**3 1937(昭和12)年ごろの日本のデパートの真実**

食事や買い物を楽しんでいるのはどんな人？

**4 ナイロン製ストッキングのセールに集まった女性たち(1940年、ニューヨーク)**

戦前 20世紀に入ると、ナイロンやポリエステル、ゼニールなど、今まで見慣れた素材の開発も進んだ。

**5 フランスの航空会社の広告(1950年)**

**4 アメリカ合衆国の自動車登録台数**

年	登録台数(万台)
1920	0.1
1921	0.2
1922	0.4
1923	0.8
1924	1.5
1925	2.5
1926	4.0
1927	6.5
1928	10.0
1929	15.0
1930	22.0
1931	30.0
1932	38.0
1933	45.0

【解説】フォードは1913年に2ドル39セントだった社員の日給を連年5ドルに引き上げた。これにより労働者の働く意欲とともに、消費者としての購買力も高まった。

51

②「今」を考えるための歴史的思考力を培う

▶身近な事象や現代的な課題にもとづいて歴史を考察することにより、生徒の興味・関心を高め、歴史を学ぶ意義を実感できるよう、問いや資料に工夫をこらしました。

③ 国際協調体制

20世紀初頭まで、戦争は国家間の対立を解消するための有効な選択肢の一つであった。しかし、民衆のくらしをまき込んで大きな犠牲をもたらした第一次世界大戦は、その考え方を大きく転換させた。戦争にたよらずに国家間の対立を解消する試みはどのようにして生まれたのだろうか？

◀p.58

**資料5 日本における有権者数と投票者数の推移**

年号	選挙年	回数	有権者数
1890	1		450,872
1892	2		434,594
1894	3		440,113
1894	4		460,483
1898	5		452,637
1898	6		502,292
1902	7		982,868
1903	8		958,322
1904	9		762,445
1908	10		1,590,045
1912	11		1,506,143
1915	12		1,546,411
1917	13		1,422,126
1920	14		3,069,148
1924	15		3,288,405
1928	16		12,405,056
1930	17		12,651,785
1932	18		12,041,963
1936	19		14,303,780
1937	20		14,074,088
1942	21		14,594,287

投票した人  
投票しなかった人

**資料6 風刺画「一千万人の昼寝」(1925年)**

【解説】右上には、「あんなに大騒ぎをしてヤツと買ツた普通選挙、買ツてしまつたら別段食べたくもないやうな新有権者」と書かれている。(北沢寅天画)

**探究しよう Q4**

20世紀初めの日本の投票率やその変化は、どのようなことを物語っているのだろうか？自分の住んでいる地域の近年の投票率を調べて、比較してみよう。

▶資料5⑤

◀p.65


▶コラムページでは現代や高校生にもつながる話題を取り上げ、「今」を歴史的視点から捉え直すとともに、**自分も歴史的的存在であると気づく**ことができるようにしました。

◀p.27

**もっと知りたい**  
**産業革命とブラスバンド**

18世紀までの金管楽器

音楽系部活動の花形、吹奏楽部はブラスバンドとよばれることもあります。ブラスバンドは金管楽器と打楽器で編成されますが、吹奏楽は「管楽器と打楽器のみの合奏、すなわち弦のないオーケストラ」(『新版吹奏楽講座』)なので、両者は異なります。管楽器は有史以来、動物の骨や角、木や金属などを材料とし、戦争や儀式で用いられました。では、金管楽器といえは何を思い出すでしょうか。まずは、トランペット。そして、トロンボーン、ホルン、チューバ、コルネットもあります。金管楽器はマウスピースを口にあて、**唇の振動**で鳴らす楽器です。



反乱労働者たちのバンド (1907年、イギリス)

歴史のなかの16歳

**満蒙開拓青少年義勇軍**

満州農業移民

満州への農業移民は、1936(昭和11)年、**広田弘毅**内閣が国策としてかかげた「20か年100万戸送出計画」により本格的に始まりました。この計画は、20年後の満州国の人口を5000万人と予想し、その1割にあたる500万人を農業移民で満たすというものです。農業での自立が困難な5段以下の零細農家の半数にあたる100万戸を20年かけて満州に移住させれば、1戸あたり5人の家族構成と計算して500万人になるという計算にもとづくもので、満州国の日本人口を増加させること、対ソ戦に備えた人口資源を確保すること、内地の農業人口を減少させることがねらいでした。



満蒙開拓青少年義勇軍募集ポスター

訓練生は「日輪兵舎」とよばれる宿舎に郷土を同じくする小隊(約60人)単位で生活し、内務訓練、農業訓練、教練、武道などさまざまな訓練を受けました。「日輪兵舎」が300棟も建てられた内原は、「満州移民の聖地」といわれました。

▶p.81

### ③ 歴史学習を生徒のこれからに生かす

- ▶ 公民としての資質を養うため、細かな知識を羅列するのではなく、小・中学校での既習事項や日常生活に根ざした**知識を活用しながら思考を深める**ことに重点をおきました。
- ▶ グローバルな世界を生きる生徒に向けて、従来の日本史・世界史の別なく広く近現代史を捉え、現代世界を構成する**歴史や文化について自分事として理解を深める**ことができるように配慮しました。**日本のできごとをも世界的な観点から理解**できるよう工夫しました。
- ▶ 時間的・空間的に広い視野を身につけながら、主体的・自律的に社会に参画し、**身の回りにある課題や社会的な課題を見出し解決に向かう力を育む**ことをめざしました。

▼p.24

## 6 日本の開国とその影響

イギリスの新聞「タイムズ」は、アメリカの日本遠征の記事をたびたび掲載し、「イラストレイテッド・ロンドンニュース」は日本に向けて出港したペリー艦隊の動向を報じている。▶(資料1)なぜ、世界は日本の開国に注目していたのだろうか？

▼p.110

資料2 パンダ来日の新聞記事と中国によるパンダ贈呈先

**乾杯 8億の友好**

「だが甘えてはならぬ 喜びの中に戒める声」

田中角栄 周恩来

**固く固く結び合う手 両首相、祝杯一氣に干す**

探究しよう Q2

パンダはいつ、どのような国におくられたのだろうか？そしてなぜ日本にやってきたのだろうか？▶(資料2)

贈呈された年	贈呈先
1957年	ソ連
1959年	ソ連
1965年	北朝鮮(2頭)
1971年	北朝鮮
1972年	アメリカ(2頭)
1972年	日本(2頭)
1973年	フランス(2頭)
1974年	イギリス(2頭)
1980年	西ドイツ(2頭)

## 2 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
<b>第1編 歴史の扉</b>	<b>A 歴史の扉</b>	<b>4～7ページ</b>	<b>6</b>
第1章 歴史と私たち	(1) 歴史と私たち ア・イ	4～5ページ	3
第2章 歴史の特質と資料	(2) 歴史の特質と資料 ア・イ	6～7ページ	3
<b>第2編 近代化と私たち</b>	<b>B 近代化と私たち</b>	<b>8～49ページ</b>	<b>20</b>
第1章 生活や社会の変化を読み取ってみよう	(1) 近代化への問い ア・イ	8～11ページ	3
第2章 結びつく世界と日本	(2) 結びつく世界と日本の開国	12～27ページ	6
(1) 18世紀までの世界	ア(7)・イ(7)	12～19ページ	3
(2) 工業化と世界市場の形成	ア(4)・イ(4)	20～27ページ	3
第3章 国民国家と明治維新	(3) 国民国家と明治維新	28～47ページ	8
(1) 国民国家と立憲体制	ア(7)・イ(7)	28～37ページ	4
(2) 帝国主義とアジア, アフリカの変容	ア(4)・イ(4)	38～47ページ	4
第4章 近代化と現代的な諸課題	(4) 近代化と現代的な諸課題 ア・イ	48～49ページ	3
<b>第3編 国際秩序の変化や大衆化と私たち</b>	<b>C 国際秩序の変化や大衆化と私たち</b>	<b>50～95ページ</b>	<b>22</b>
第1章 生活や社会の変化を読み取ってみよう	(1) 国際秩序の変化や大衆化への問い ア・イ	50～53ページ	3
第2章 第一次世界大戦と大衆社会	(2) 第一次世界大戦と大衆社会	54～71ページ	7
(1) 第一次世界大戦と国際社会	ア(7)・イ(7)	54～63ページ	4
(2) 1920年代の世界と大衆の時代の到来	ア(4)・イ(4)	64～71ページ	3
第3章 経済危機と第二次世界大戦	(3) 経済危機と第二次世界大戦	72～93ページ	9
(1) 国際協調の挫折と2度目の世界大戦	ア(7)・イ(7)	72～81ページ	4
(2) 世界大戦がもたらしたもの	ア(4)・イ(4)	82～93ページ	5
第4章 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	(4) 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題 ア・イ	94～95ページ	3
<b>第4編 グローバル化と私たち</b>	<b>D グローバル化と私たち</b>	<b>96～135ページ</b>	<b>22</b>
第1章 生活や社会の変化を読み取ってみよう	(1) グローバル化への問い	96～99ページ	3
第2章 冷戦と世界経済	(2) 冷戦と世界経済	100～115ページ	7
(1) 冷戦と国際政治	ア(7)・イ(7)	100～107ページ	4
(2) 世界経済の拡大と日本	ア(4)・イ(4)	108～115ページ	3
第3章 世界秩序の変容と日本	(3) 世界秩序の変容と日本	116～133ページ	8
(1) 市場経済の変容と冷戦の終結	ア(7)・イ(7)	116～121ページ	3
(2) 冷戦終結後の世界	ア(4)・イ(4)	122～133ページ	5
第4章 現代的な諸課題の形成と展望	(4) 現代的な諸課題の形成と展望	134～135ページ	4
		計	70